
序 章

1. 景観とはなにか

2. よい景観・美しい景観とはなにか

序 章

1. 景観とはなにか

景観は目に見えるものだけか？

人が体で感じとる情報の約8割は目で見えるものです。従って、本景観計画は基本的には目に見える環境を主な対象とします。しかし、景観は同時に五感全部で捉えられるものでもあり、相互に関係、刺激をしあっていることを無視することはできません。結果的に景観が目に見えるものに偏ったとしても、そこには五感が常に付帯するものなのです。



憩いの場となる市民公園

景観はものだけをさし、
私たちの感じ方は関係ないのか？

景観とは実在するものや現象そのものをさしますが、私たちがそれらを見る時はそれぞれの感じ方があります。私たちが普段風景と呼ぶものは、そうした景観が心に映るさまも含めたものです。本景観計画では、景観を単なる物体・現象として扱いつつも、その解析、評価、計画にあたっては私たちの考え方も併せて考えていきます。



伊木山と鵜沼地区のにんじん畑



鵜沼宿の家並み

● 景観とは地域の全体的な状態を示します。

身のまわりの環境のうち、形・状態となって見え、感じとられるもの。

個々の山、樹木、建築物、構造物ではなく、自然・人工物を含め、混ざり合った全体の姿のこと。

● 景観を構成するものが個々の山や樹木、建築物、構造物などです。



2. よい景観・美しい景観とはなにか

美は必ずしも主観的なものではない

知覚、感覚、情感を刺激して内的快感をひきおこすもの。「快」が生理的、個人的、偶然的、主観的であるのに対し、「美」は個人的利害関心から一応解放され、より必然的、客観的、社会的である。(広辞苑より)

美とは主観的なものである、主観的なものだから公共で扱うべきものではない、という通説は必ずしも正しくありません。

都市の美しさには

自然にかなった・理にかなった という意味合いもある

- 自分たちの生命の安全と持続を図ってくれるような色、モノ、環境、景観
- 人間にとって（真に）有用、好ましいことであり、飾りたてるものではない
- 物と物との間の良好な関係、物と自然との良好な関係があるもの
- 標識や番地によってではなく、実際の景観的経験を通じて場所が認識できるもの
- 印象深いランドマークや河川、広場等さまざまな景観要素が手がかりとなって全体の構造を記憶の中に復元しやすいもの

よい景観 美しい景観

美の追求は都市の成長の最終段階である

美は個性的なもの、魅力的なものであり、居住者にとっては誇り（住んでよかった）、観光客にとっては魅力（来てよかった）と思わせるものであり、数字で計れない質的価値に人の注意を向けさせるもの、安らぎ、懐かしみ、愛着を憶えるもの、と定義することができます。人間の欲求段階における自己充足と同様、自分が誇りに、他者が魅力に思うような都市づくりが、今後求められるといえます。



広大な木曽川河川



各務原パークウェイ



学びの森プロムナード



各務野自然遺産の森